

学会参加報告

日本材料学会 疲労部門委員会 第 35 回疲労シンポジウム

慶應義塾大学大学院 総合デザイン工学専攻
小茂鳥研究室博士 2 年 羽山元晶

私は、2022 年 10 月 20 日～21 日に沖縄北部雇用能力開発総合センターで開催された、日本材料学会疲労部門委員会第 35 回疲労シンポジウムに参加し研究発表を行いました。本シンポジウムは隔年で開催されており、全国の大学、研究機関、企業から疲労の最前線に関わる研究者が集まるシンポジウムです。COVID-19 の流行も落ち着きを見せていたことから完全対面での開催となり、2 日間で約 50 件の発表、約 80 名の参加者と多くの方が集まり、非常に活発な議論、討論が行われておりました。

今回、私は表面処理のセッションにおいて、「微粒子ピーニング(FPP)により形成された結晶粒微細化層が残留応力解放挙動に及ぼす影響」のタイトルで発表を行いました。この 2 か月にて ISCP14, M&M2022 材料力学カンファレンスと発表を重ねてきており、非常にリラックスして楽しんで発表を行うことができたと思っています。質疑応答では、4 名の方からコメント、質問をいただくことができ、今後検討していかなければならない課題もみつける有意義な時間でした。また、発表後には数名の方から「面白い研究だね」とコメントいただけたことも、自信につながりました。

他の発表では、自分の研究の参考になる発表も多く、今後の考察につながる知見を得ることができました。また企業の方の発表も多く、アカデミカからの視点の研究と、企業からの研究の視点の違いを感じることもでき、非常に有意義で勉強になる時間でした。

最後に、今回の発表の機会を与えて下さった小茂鳥先生、3 日間ご一緒した IHI 高梨様、沖縄の案内をしてくださった埼玉工業大学(元沖縄高専)政木先生、沖縄にてお世話になったすべての皆様、研究を進めるにあたり協力いただいた皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。



発表会場、とても広い会場でした

沖縄の天気はまだ夏らしさが残っていました